

ニホンザルの個体数管理モデル構築 ～県民が作る対策の優良事例～

＜R7当初予算要求額 15,000千円＞

【清流の国ぎふ森林・環境基金】

1 安心と共生のニホンザル対策事業費補助金

(R6) 0千円 → (R7) 9,000千円

(1) 事業内容

- ・ニホンザル対策の活動を各種団体等から募集（政策オリンピック）
- ・優れた事例を表彰し、対策モデルとして県内へ横展開

(2) 実施方法

- ・県広報、ホームページ、市町村等を通じて活動を募集
- ・提案を審査し、支援対象団体等を選定
- ・選定された団体等に対して活動費を助成
- ・アイデア活動の実践
- ・優れた活動を県が表彰

(3) 対象団体

自治会、改良組合、各種団体（JA、猟友会、森林組合など）

(4) 補助率

定額（上限3,000千円／団体等）

2 安心と共生のニホンザル対策事業費

(R6) 0千円 → (R7) 6,000千円

- ・ニホンザルの群れの行動域等を把握

〔加害性の高いニホンザルの群れからメス個体を捕獲し、GPS装着後に放獣して、その後の電波情報をモニタリング〕

- ・サル群れの行動情報を地域の追い払い活動等に活用

＜加害性の高いニホンザルが生息する市町＞

山県市(5)、垂井町(1)、関ヶ原町(2)、揖斐川町(3)、関市(3)、
美濃市(2)、郡上市(3)、八百津町(1)、下呂市(3)、高山市(2)、
飛騨市(1)

※（ ）は加害レベル4以上の群数

安心と共生の二ホンザル対策事業費補助金 ～清流の国ぎふ森林・環境基金事業～

農村を取り巻く現状

- ・農村地域では高齢化や人口減少が進行し獣害対策に必要な人手や資金が不足。
- ・耕作放棄地の増加によりサルの生息域が拡大。
- ・電気柵などの従来の対策では学習能力の高いサルには効果が低い。
- ・個々の農家が独自に対策を講じても限界があり、地域全体での連携が重要。



安心して暮らすことのできる農村集落環境の復活